

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593443

研究課題名(和文) 地域高齢者のスピリチュアリティとその影響要因および生きがい感に関する調査研究

研究課題名(英文) The effect of spirituality on well-being in community-dwelling elderly

## 研究代表者

與古田 孝夫 (YOKOTA, Takao)

琉球大学・医学部・教授

研究者番号：80220557

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：Lazarusらの心理学的ストレスモデルに基づき、高齢者のスピリチュアリティと抑うつ傾向との関連と、その作用機序を明らかにするため仮説モデルの検証を行った。その結果、地域高齢者の身体的な衰えの心理的なストレスに対して、回避・逃避型コーピングを選択せず、情動焦点型コーピングとスピリチュアリティを獲得することにより、スピリチュアリティは精神健康により良い影響を与えることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study is based on a theory of psychological stress and coping developed by Lazarus to examine the effect of spirituality on depression by mediating cognitive appraisal or stress coping in community-dwelling elderly. The study showed a relationship between spirituality and "emotion-focused" and "avoidance-escape" coping styles related to "depressive tendencies," based on a theory of psychological stress and coping developed by Lazarus, evident among community-dwelling elderly. "Emotion-focused" coping style increased with increasing spirituality, which can lead to the alleviation of depression. Conversely, it was also shown that increased spirituality leads to an enhanced tendency to induce the "avoidance-escape" coping style and depression.

研究分野：精神保健看護学

キーワード：地域高齢者 スピリチュアリティ うつ 認知的評価 ストレスコーピング

1. 研究開始当初の背景

高齢期は、霊性といったスピリチュアルな側面を通して老いの受容は促進され、精神健康も高まることが考えられ、地域高齢者のスピリチュアリティがストレス認知 - 対処行動および精神健康に及ぼす機序について明らかにすることは、高齢者の自殺や抑うつ対策およびヘルスプロモーションを考える上で、取り組むべき重要な課題である。

2. 研究の目的

本研究は、心理学的ストレスモデルのプロセスモデルに基づき、(a) ストレス認知を介したスピリチュアリティから抑うつ傾向への影響、(b) ストレス対処行動を介したスピリチュアリティから抑うつ傾向への影響の因果モデルを検証することを目的とした。

3. 研究の方法

沖縄県 U 市の 65 歳以上地域高齢者 15,997 名 (平成 24 年 6 月末現在) のなかから、65 歳から 89 歳までは 5 歳区分ごとに 30.0% を、90 歳以上は少数のため区分せずに 30.0% を層化無作為抽出した 5,000 名を対象とし、事前に把握できた施設入居者を除いた 4,873 名 (男性 2,166 名、女性 2,707 名) を対象とした。調査は、平成 24 年 9 月に郵送回収法による自記式無記名質問紙調査により実施した。回答の得られた 1,686 名 (男性 750 名、女性 878 名、不明 58 名、回収率 34.6%) のうち、施設入居者、転居者、認知機能の低下 (代理者より質問紙記載にて報告がある者など) や疾患などにより回答が困難な者、分析項目に欠損のある者、および本研究においてストレスサに設定した「身体的衰え」を感じていない者を除いた 718 名 (男性 369 名、女性 349 名) を分析対象とした。各尺度についての定量変数間には Pearson の相関係数を、定性変数間には Spearman の順位相関係数を算出した。本研究では、心理学的ストレスモデルにおけるプロセスモデルに基づき、スピリチュアリティとの仮説モデルを構築し、分析を行った。分析手順としては、はじめに本研究において「身体的衰え」がストレス対処行動を介してストレス反応に影響することを想定する適合度の良いモデルを構築した後に、(a) ストレス認知 (身体的衰え) を介してスピリチュアリティが抑うつ傾向に影響する経路、(b) ストレス対処行動を介してスピリチュアリティが抑うつ傾向に影響する経路を包含した因果モデルについて検討を行った。モデルの採用基準は、先行研究<sup>38,39)</sup>を参照し、適合度指標が最も良好 (GFI = .90, AGFI = .90, RMSEA < .05) であり、すべて

のパス係数が 5% 水準で有意となることを条件とした。解析には統計解析ソフト SPSS17.0J および因果モデルの検証には AMOS17.0J を使用し、有意水準は 5% 未満とした。

4. 研究成果

心理学的ストレスモデルにおけるプロセスの「身体的衰え」から抑うつ傾向への経路、「身体的衰え」からストレスコーピングへの経路、ストレスコーピングから抑うつ傾向への経路を包含した因果モデルについて検証した (Fig.1)。その結果、適合度指標は GFI = .889, AGFI = .855, RMSEA = .074 とモデル適合度が悪く、身体的衰えから問題焦点型コーピングへのパス ( $\beta = .084, p = .051$ ), 身体的衰えから情動焦点型コーピングへのパス ( $\beta = .054, p = .220$ ), 問題焦点型コーピングから抑うつ傾向へのパス ( $\beta = .166, p = .257$ ) が有意でなかったため、この 3 つのパスおよ

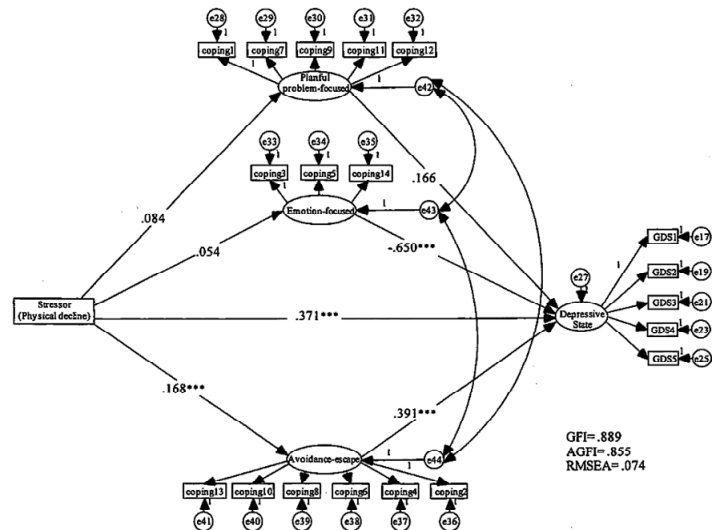


Fig. 1 Structural equation model of physical decline, stress coping and depressive state

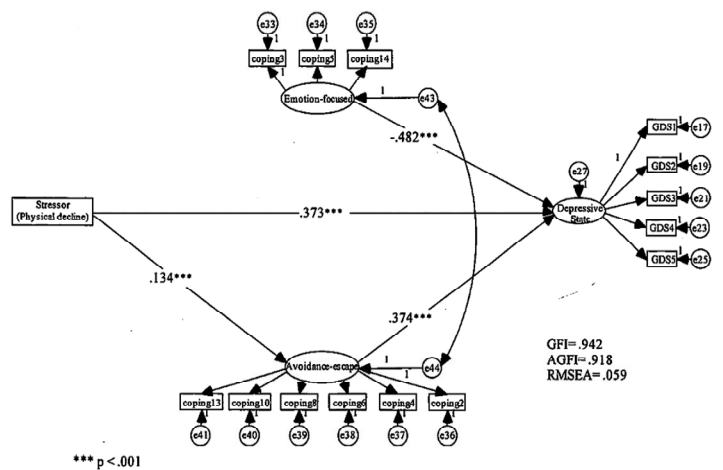


Fig. 2 Structural equation model of physical decline, stress coping and depressive state 2  
び問題焦点型コーピングを削除して再度分析を行った。その結果 (Fig. 2), モデル適合度は GFI = .942, AGFI = .918, RMSEA = .059

と許容可能な値を示し,身体的衰えから回避・逃避型コーピングへ正のパス( $\beta = .134, p < .001$ ),情動焦点型コーピングから抑うつ傾向へ負のパス( $\beta = -.482, p < .001$ ),回避・逃避型コーピングから抑うつ傾向への正のパス( $\beta = .374, p < .001$ )がいずれも有意であった。

上記のモデルにスピリチュアリティを投入し,スピリチュアリティから「身体的衰え」

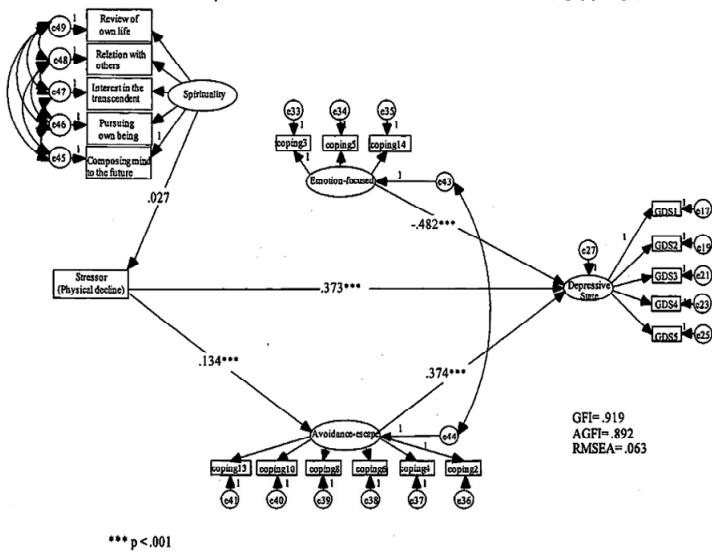


Fig. 3 Structural equation model of physical decline, stress coping, spirituality and depressive state 1

に至る経路を追加したモデルを検証した(Fig. 3). その結果,モデル適合度は  $GFI = .919, AGFI = .892, RMSEA = .063$  と低下し,スピリチュアリティから「身体的衰え」へのパスは有意な関連を認めなかった( $\beta = .027, p = .711$ ).

有意な関連を認めなかったスピリチュアリティから「身体的衰え」に至るパスを削除し,新たにスピリチュアリティからストレスコーピングである情動焦点型コーピングと回避・逃避型コーピングへの経路を追加したモデルを検証した(Fig. 4). その結果,「身体的衰え」から抑うつ傾向へのパス( $\beta = .362, p < .001$ ),「身体的衰え」から回避・逃避型コーピングへのパス( $\beta = .133, p < .001$ ),情動焦点型コーピングから抑うつ傾向へのパス( $\beta = .554, p < .001$ ),回避・逃避型コーピングから抑うつ傾向へのパス( $\beta = .436, p < .001$ ),スピリチュアリティから情動焦点型コーピングへのパス( $\beta = .616, p < .001$ ),スピリチュアリティから回避・逃避型コーピングへのパス( $\beta = .214, p < .001$ )のすべてのパスで有意な関連を認め,モデル適合度は  $GFI = .944, AGFI = .925, RMSEA = .046$  と改善し,モデル適合度は最も良好であった. 以上の結果より,スピリチュアリティから情動焦点型コーピングを介した抑うつ傾向への経路および「身体的衰え」から回避・逃避型コーピングを介した抑うつ傾向への経路にスピリチュアリティから回避・逃避型コーピングへ影響する経路を包含したモデルを最終モデルとした。

本研究では, Lazarus ら<sup>1)</sup>の心理学的ストレスモデルに基づき,スピリチュアリティと抑うつ傾向との関連と,その作用機序を明らかにするため,仮説モデルの検証を行った. その結果,(a)「身体的衰え」を介したスピリチュアリティと抑うつ傾向との関連は実証されなかった. 一方,(b)ストレス対処行動を介したスピリチュアリティと抑うつ傾向への関連では,スピリチュアリティは情動焦点型コーピングおよび回避・逃避型コーピングを介して抑うつ傾向に影響するという因果モデルが実証された.

本研究結果から,スピリチュアリティの側面である existential well-being が,スピリチュアリティの「超越的なもの」や「目に見えない力の存在」という「超越的なものへの関心」に対する依存性を高め,生きる意味や関係性が見いだせなかった場合に,積極的コーピングとされる「問題焦点型コーピング」や「情動焦点型コーピング」ではなく,消極的コーピングとされる回避・逃避型コーピングを助長し,抑うつ傾向の増大に影響したことが考えられる.

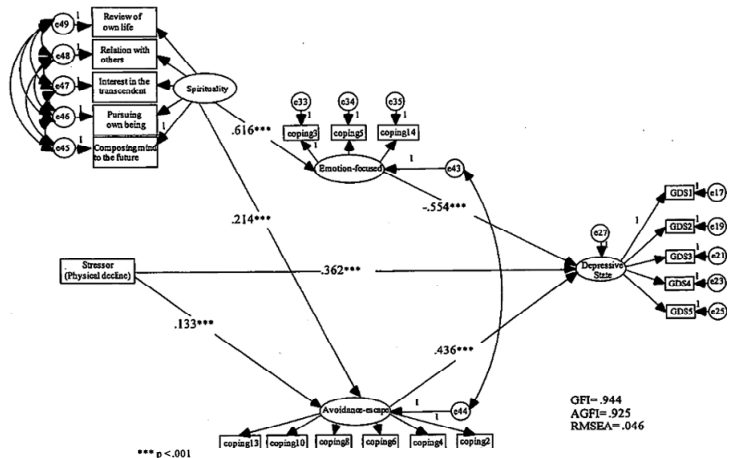


Fig. 4 Structural equation model of physical decline, stress coping, spirituality and depressive state 2

#### <文献>

Lazarus R.S., and Folkman S. (本明寛, 春木豊, 織田正美訳): ストレスの心理学 - 認知的評価と対処の研究 - . pp.22-25, 実務教育出版, 東京, 1991.

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

神谷ひかる, 豊里竹彦, 古謝安子, 與古田孝夫: 地域高齢者のスピリチュアリティがストレス認知 ストレス対処行動を介在に抑うつ傾向に及ぼす影響. 琉球医学雑誌, 査読有, 32(1,2): 33-44, 2013

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

與古田孝夫 (YOKOTA, Takao)

研究者番号：80220557

(2)研究分担者

無 ( )

研究者番号：

(3)連携研究者

無 ( )

研究者番号：